

社会 第5学年 わたしたちの食生活を支える食料生産 検討会の想定問答

指摘 1：本時で何を見取るのか。

返し：「これからも食料を確保するため、生産者と消費者にはどんな関わり方があるだろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。結論だけではなく、どの事実を選び、なぜその事実で説明できると考えたかを見る。(2)の学習を具体的な記録で確かめる。

指摘 2：活動だけで終わらないか。

返し：食料の産地分布、生産の変化、輸入の資料を年・単位をそろえて読む。生産者の工夫と消費者の選び方を関係付け、安定して食料を確保するための取組を複数の立場から検討する。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線でつなぐ。(2)で求める理解と表現をそこで確かめる。

指摘 3：予想と違う結果が出た場合はどうするか。

返し：国産ならすべてよい、輸入をなくせばよいという単純な結論には、価格、自然条件、供給の安定、働く人の立場を資料で比べる。自給率は定義の違う数値を混ぜない 予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。(2)に関わる考えを見直す学習として扱う。

指摘 4：説明や記述が難しい子にはどうするか。

返し：比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。生産者と消費者の願いを比較する活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

指摘 5：安全や個人への配慮は何か。

返し：家庭の食費や食事内容を公開しない。数値は公的資料の対象年度を明示し、実際の購入を課題にしない 実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、(2)の問いを考える機会を確保する。

指摘 6：資料やICTはどのように使うか。

返し：食料の産地分布、生産の変化、輸入の資料を年・単位をそろえて読む。生産者の工夫と消費者の選び方を関係付け、安定して食料を確保するための取組を複数の立場から検討する。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

指摘 7：時数の根拠と削る場合の考え方は。

返し：全7時間は日本文教出版の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「これからも食料を確保するため、生産者と消費者にはどんな関わり方があるだろうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や清書の方法を見直す。安全確認や実物を確かめる過程は省かない。

指摘 8：振り返りと次の指導をどうつなぐか。

返し：「これからも食料を確保するため、生産者と消費者にはどんな関わり方があるだろうか」について最初の考え、根拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。これからの食料生産への考えを述べる活動で根拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

